

カリキュラム・マネジメントとは

千葉大学特任教授 天笠 茂



独立行政法人教職員支援機構

目次

I. 学習指導要領改訂の全体像

－「社会に開かれた教育課程」とカリキュラム・マネジメント－

II. カリキュラム・マネジメント－3つのアプローチ－

1. 教科横断

2. PDCAサイクルの確立

3. ヒト・モノ・カネ・情報・時間の再配分

III. カリキュラム・マネジメントのねらい

IV. カリキュラム・マネジメントと総則

I . 学習指導要領改訂の全体像

－ 「社会に開かれた教育課程」とカリキュラム・マネジメント－

「社会に開かれた教育課程」とカリキュラム・マネジメント

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
 - ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
 - ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。
- 学習指導要領等の枠組みの見直し（「学びの地図」）
 - 「主体的・対話的で深い学び」の実現（「アクティブ・ラーニング」）
 - 「カリキュラム・マネジメント」の実現

Ⅱ. カリキュラム・マネジメント －3つのアプローチ－

カリキュラム・マネジメントとは

各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくことが求められる。これが、いわゆる「カリキュラム・マネジメント」である。

(中央教育審議会「答申」 2016 (平成28) . 12. 21)

カリキュラム・マネジメントの3つのアプローチ

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

1. 教科横断：教育課程全体で取り組む課題

○現代的な課題

- ・ 環境教育
- ・ キャリア教育
- ・ 情報教育
- ・ 防災教育
- ・ 食育
- ・ ESD
- ・ プログラミング教育 など

○育成を目指す資質・能力

三つの柱のバランスの取れた実現

- (1) 知識及び技能が習得されるようにする。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養する。

○言語活動の充実〈横串を刺す〉

2. PDCAサイクルの確立：授業を振り返る

◇教育課程の編成・実施・評価・改善

<授業の振り返る>

- ・ 学習評価－カリキュラム評価－学校評価
- ・ 単元を含む年間指導計画への評価
- ・ 年間指導計画をもとにしたカリキュラム評価
- ・ カリキュラム評価をもとにした学校評価

3. ヒト・モノ・カネ・情報・時間の再配分

- 人材や予算、時間、情報、教育内容といった必要な資源を再配分する。
- カリキュラム・マネジメントは、全ての教職員が参加することによって、学校の特徴を創り上げていく営み。

Ⅲ. カリキュラム・マネジメントの ねらい

カリキュラム・マネジメントのねらい

- 過度に進行した教科等によるタテ割りの教育課程、学校や教育行政のシステムや組織運営の是正
- 学校の全体的な在り方を改善
- 学級担任や教科担任などに、自らの授業や学級経営が教育課程といかなる関係にあるか、学校教育目標の実現にいかなる役割を果たすか、などについて自らとの対話の促進

IV. カリキュラム・マネジメントと 総則

カリキュラム・マネジメントのチェックリストとして〈総則〉

第1 小学校教育の基本と教育課程の役割

第2 教育課程の編成

1. 各学校の教育目標と教育課程の編成
2. 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
3. 教育課程の編成における共通的事項
4. 学校段階等間の接続

第3 教育課程の実施と学習評価

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
2. 学習評価の充実

カリキュラム・マネジメントのチェックリストとして〈総則〉

第4 児童の発達の支援

1. 児童の発達を支える指導の充実
2. 特別な配慮を必要とする児童への指導

第5 学校運営上の留意事項

1. 教育課程の改善と学校評価等
2. 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

第6 道徳教育に関する配慮事項

カリキュラム・マネジメントとは

千葉大学特任教授 天笠 茂



独立行政法人教職員支援機構